

加納総合病院整形外科の御紹介



加納総合病院 整形外科

納田 真也

当科の特徴と医局員

特徴： 大阪医科薬科大学の関連病院， 日整会研修指定施設
救急病院のため外傷(骨折・捻挫・靭帯損傷など) が中心

常勤医： 整形外科医 4 名, リハビリ医 1 名

部長) 納田 真也(脊椎), 医長) 和田 浩伺, 医員) 中嶋 建元

上肢外傷センター長) 森本 法生(手), リハビリセンター長) 下 裕司(脊椎)

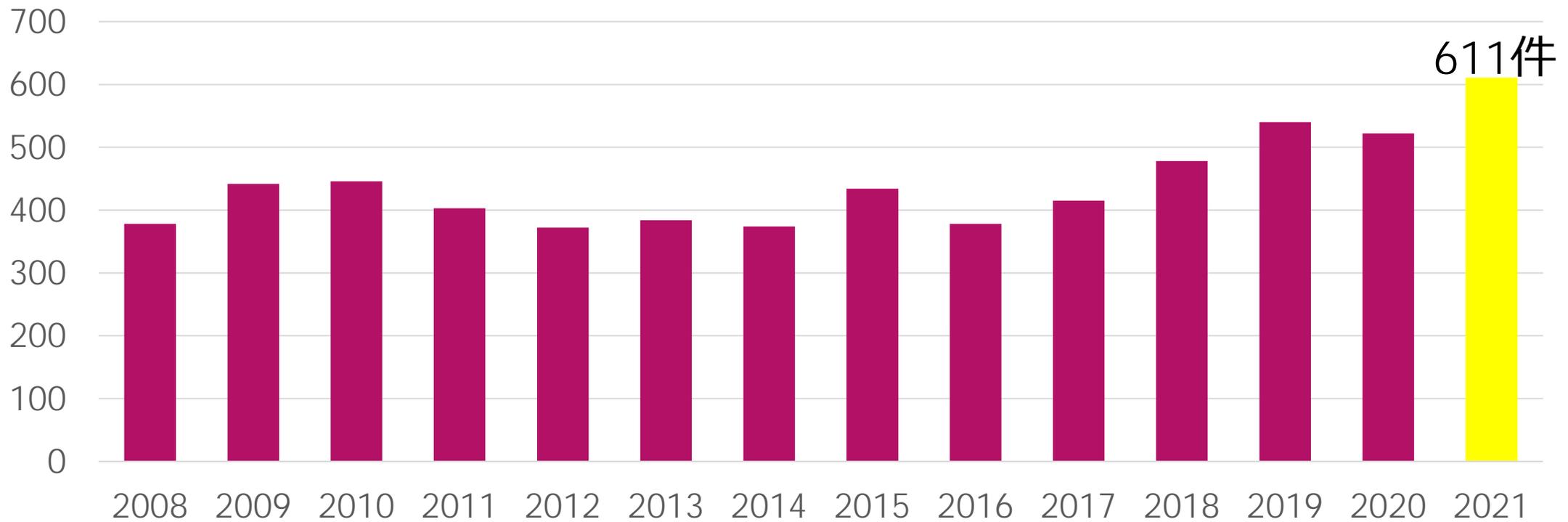
非常勤医： 羽山 祥生(脊椎, 助教), 松山 洵也(関節, 院生), レジデント1名

(敬称略)

最近の当科における出来事

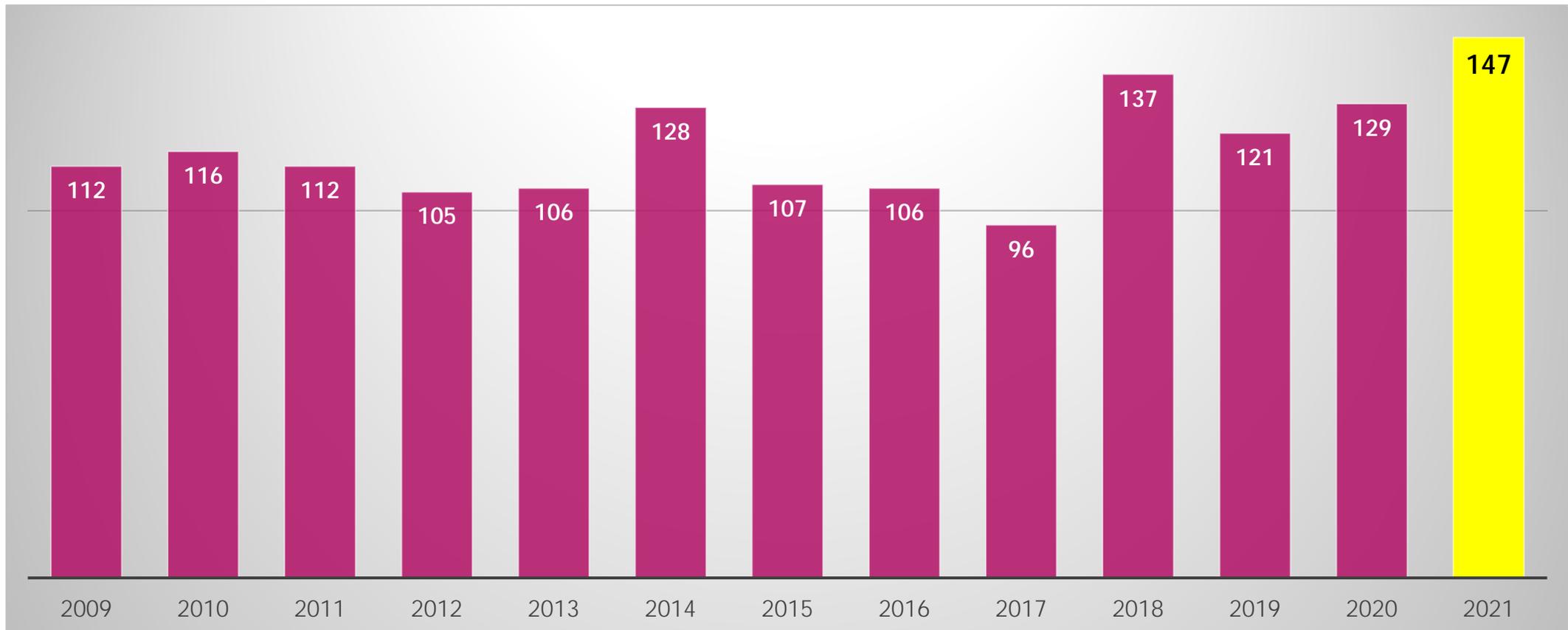
- ① 整形外科常勤医が4人に増員となり治療成績が向上
- ② コロナ禍に関わらず2021年度の手術件数が600件以上に増加
- ③ 術中透視装置およびナビゲーションシステムの導入
- ④ 骨粗鬆症専門外来（1回/月）を2021年4月より開始
- ⑤ 骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）を2022年8月より開始

手術件数の推移



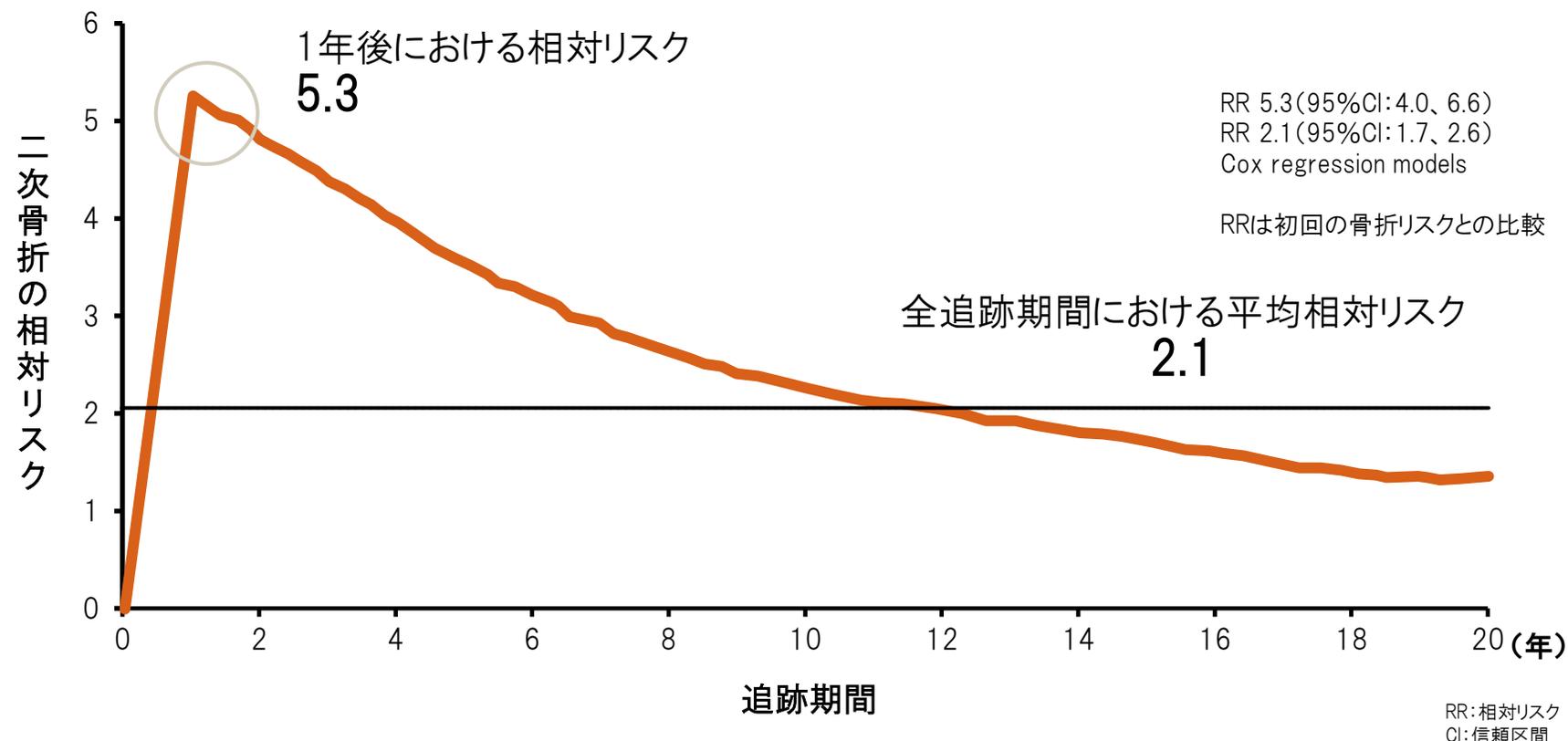
2021年度は過去最高の手術件数

当院の大腿骨近位部骨折に対する手術件数の推移



初回骨粗鬆症性骨折後の二次骨折のリスク（海外データ）

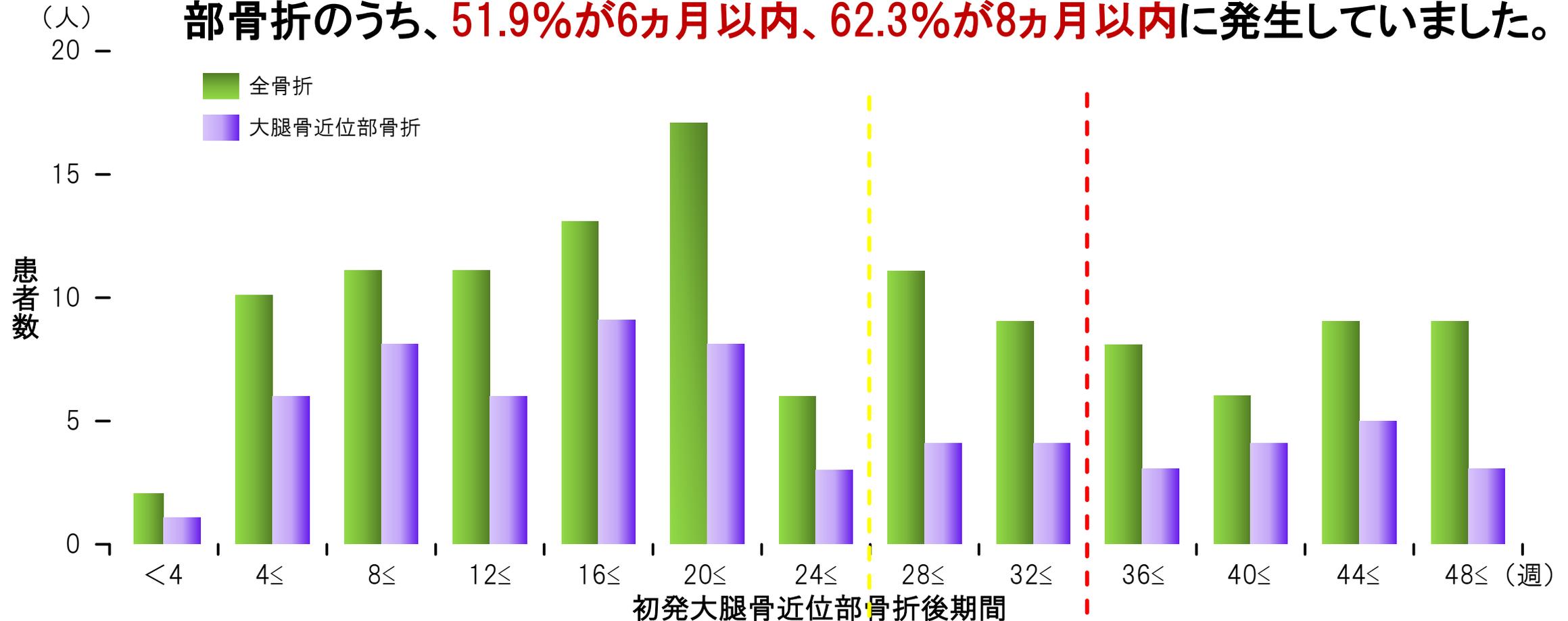
- ▶ 既存骨折を有する患者さんの二次骨折リスクは、骨折のない骨粗鬆症患者より骨折リスクが高まります。
- ▶ とりわけ、骨折1年ほどで、高い二次骨折リスクを示します。



【調査方法】横断研究において、骨粗鬆症のリスク、骨折既往歴、閉経に関する質問に回答した50～90歳の閉経後女性4,140名を対象に調査を行った。本調査のベースライン時から10年後に、2,372例を対象とした10年間のフォローアップ調査を実施し、骨折歴に関する質問を行い、二次骨折の相対リスクを検討した。全例4,140例、閉経後に骨折を起こした患者924例、二次骨折患者243例

大腿骨近位部骨折後の新規骨折発生時期

- 大腿骨近位部骨折日本人女性において、骨折後1年以内の新規大腿骨近位部骨折のうち、**51.9%が6ヵ月以内、62.3%が8ヵ月以内**に発生していました。



【調査方法】2006年1月1日～2007年12月31日に日本国内の5地域25医療施設において初発大腿骨近位部骨折により治療を受けた65歳以上の女性患者すべてに質問票を送り、回答を得た2,328例を対象に初発大腿骨近位部骨折後1年間の新規骨折発生を調査した。

大腿骨近位部骨折における治療のポイント

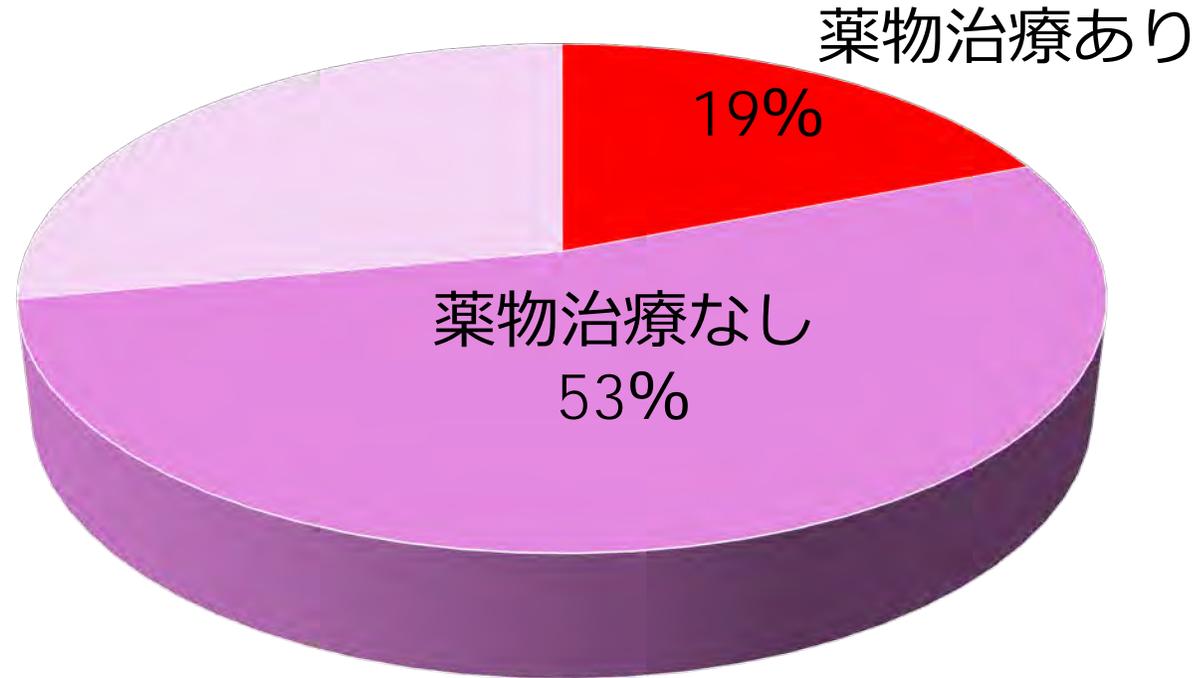


早期離床を目指し
再骨折を予防する



早期手術
骨粗鬆症の薬物治療

大腿骨近位部骨折後1年間における骨粗鬆症治療



1年間に骨粗鬆症の薬物治療を行っていたのは約20%にとどまっていた。

OLS(FLS)の意義

- ▶ 脆弱性骨折は生命予後の悪化をもたらす重大な疾患。
- ▶ 骨折治療を受けた患者が再骨折することを防ぐことは本人のみならず、家族、地域社会、医療経済面からも重要である。
- ▶ FLSは、脆弱骨折患者に対する**骨粗鬆症治療開始率および治療継続率を上げる**とともに、転倒予防の実践により二次骨折を防ぎ、骨折の連鎖を断つことが使命である。

骨粗鬆症リエゾンサービス(OLS:Osteoporosis Liaison Service)と 骨折リエゾンサービス(FLS:Fracture Liaison Services)



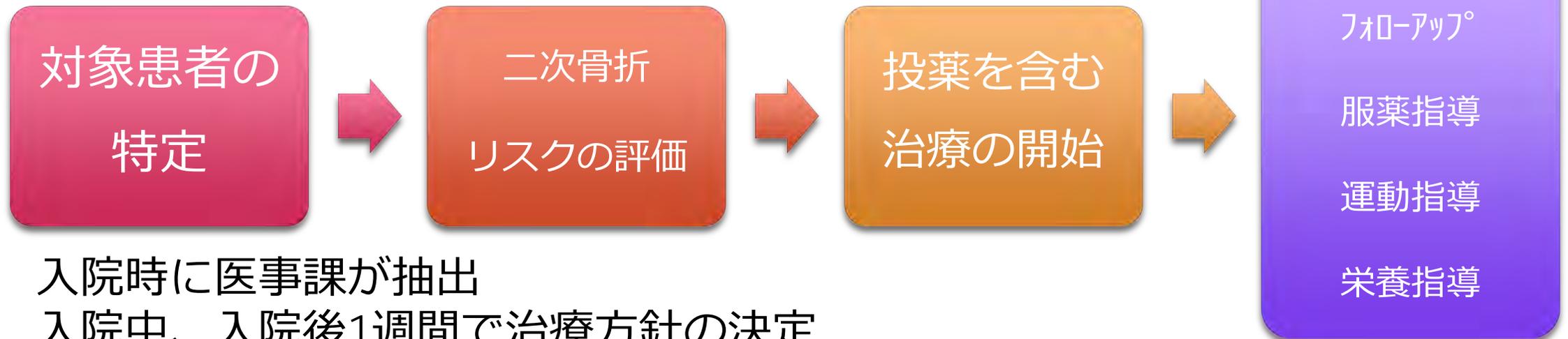
リエゾン　：　連絡係、連絡窓口、つなぎというフランス語
イギリスで1990年代後半から開始され世界の国々で発展

FLS（骨折リエゾンサービス）

目的) 多職種で連携して、骨折患者の骨粗鬆症に対する治療の開始
および継続率向上を通じて二次骨折を予防する。

多職種) 看護師, 理学療法士, 放射線技師, 薬剤師, 社会福祉士,
検査技師, 管理栄養士, 医事課, 医師事務など

2022年 院内骨粗鬆症クリニカルパス導入



入院時に医事課が抽出
入院中、入院後1週間で治療方針の決定
1年間の治療継続を目標に外来にて運用

骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）の発足

動機：骨粗鬆症患者の再骨折を予防する（FLS）

2017年9月 骨粗鬆症測定装置を導入（TBSの測定が可能）

2020年 12月 ユーシービー(ucb)ジャパンよりOLS発足の手順

2021年 3月16日 水戸中央総合病院 古俣先生によるFLS説明会（web開催）

4月20日 第1回ワークショップ

5月25日 第2回ワークショップ

6月20日 第3回ワークショップ

8月 骨粗鬆症リエゾンサービス委員会発足

骨粗鬆症リエゾン委員会のメンバー(15名) コツコツボーン

リハビリ (河合、奥野)

放射線技師 (松岡)

看護師 (病棟：小川、久保、 外来：田中、磯貝)

薬剤師 (山田)

検査技師 (福田)

社会福祉士 (高橋)

医師事務 (西村、中嶋)

医事課 (中瀬、今井)

医師 (納田)

(敬称略)

OLS委員会の風景

(第4火曜日16時30分~17時)



FLSの活動内容

- ▶ 対象は50歳以上の大腿骨近位部骨折、脊椎椎体骨折
- ▶ 医事課が入院患者をデータベースに登録
- ▶ 各部署がデータベースの作成
- ▶ 医師が患者へ説明し検査を施行
- ▶ 歯科医による口腔内評価
- ▶ 投薬、リハビリによる治療開始
- ▶ 病棟で再骨折予防につき看護師、理学療法士などが説明
- ▶ 退院決定すれば6カ月後の次回予約（基本的に治療は近医へ依頼）

2022年度診療報酬改定—運動器疾患関連—

①継続的な二次性骨折予防に係る評価の新設

イ) 二次性骨折予防継続管理料 1 (手術を担う一般病棟)	1000点
ロ) 二次性骨折予防継続管理料 2 (リハを担う病棟)	750点
ハ) 二次性骨折予防継続管理料 3 (外来)(月1回)	500点

②骨折観血的手術の「緊急整復固定加算」の新設

75歳以上の大腿骨近位部骨折患者に対し、骨折後48時間以内に整復固定もしくは人工骨頭挿入を行った場合で、なおかつ二次性骨折予防継続管理料 1 を算定する場合に限る 4000点

③小児運動器疾患指導管理料の対象年齢引き上げ

④湿布薬の処方適正化

大腿骨近位部骨折の 緊急挿入加算および緊急整復固定加算 (令和4年4月～6月)

緊急挿入加算



14件

緊急整復固定加算



5件

46.4%
(19例 / 41例)

当院の大腿骨近位部骨折に対する 治療および検査の割合の推移

	症例数	入院前の治療率	入院中検査施行率	入院時の治療率
2020年1月	17	5 (29.4%)	5 (29.4%)	6 (35.3%)
2021年5月	13	4 (30.8%)	8 (61.5%) ↑	4 (30.8%)
2022年5月	11	2 (18.2%)	11 (100%) ↑	8 (72.7%) ↑

2021年4月より**医師事務就任**

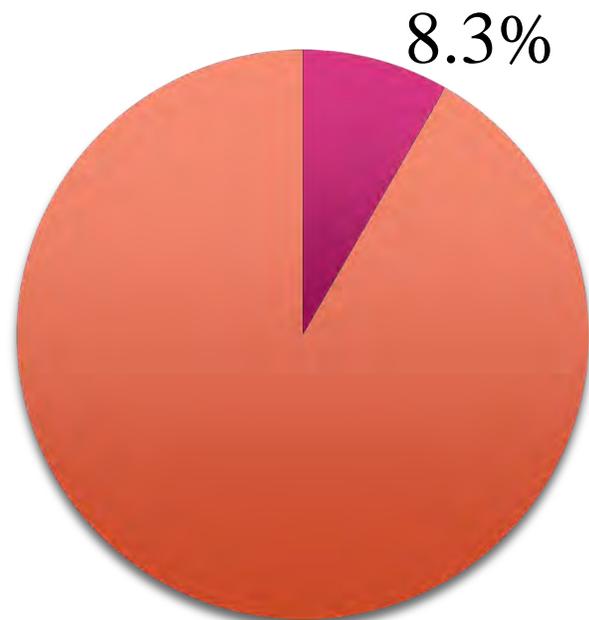
2022年3月より**クリニカルパス導入**し4月から**保険点数の加算**

(例)

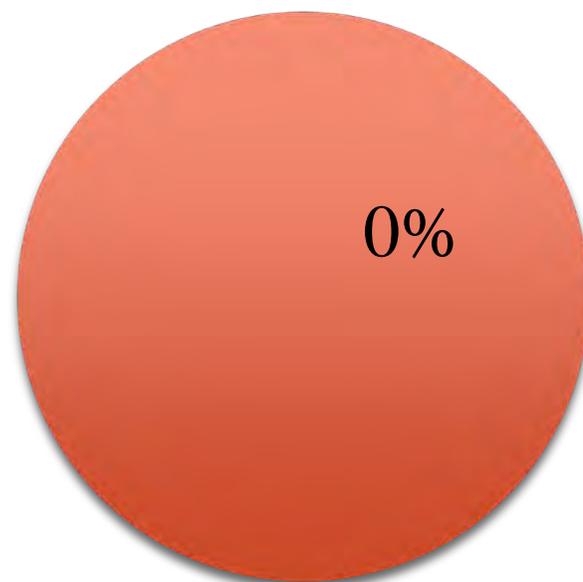
(自施設データ)

入院後の新規治療開始率（入院後治療開始/未治療）

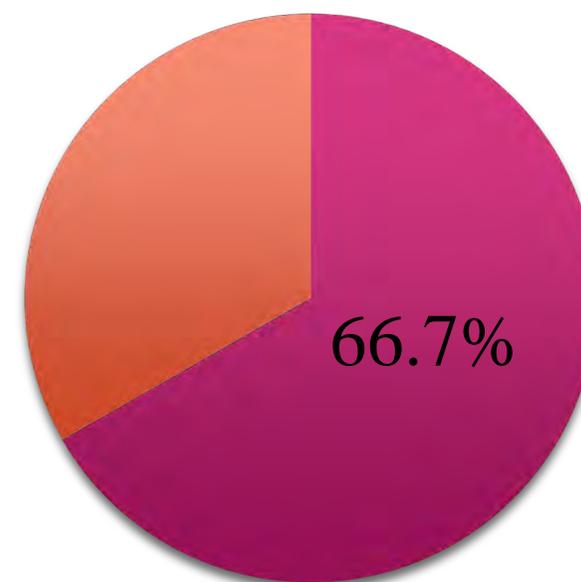
2020年1月



2021年5月



2022年5月



2022年4月以降、大腿骨近位部骨折に対する 治療および検査の割合

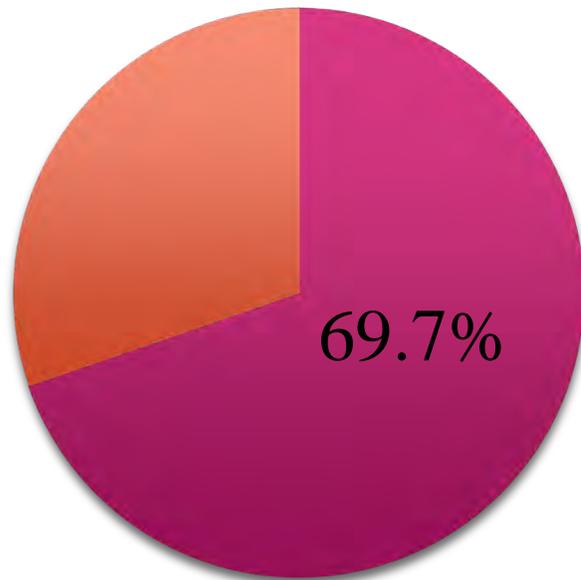
	症例数	入院前の治療率	入院中検査施行率	入院時の治療率
2022年4月	10	3 (30%)	10 (100%)	7 (70%)
2022年5月	7	0 (0%)	7 (100%)	6 (85.7%)
2022年6月	11	2 (18.2%)	11 (100%)	8 (72.7%)
合計	28	5 (17.9%)	28 (100%)	21 (75%)

(例)

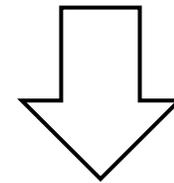
(自施設データ)

2022年4月から6月までの 入院後の新規治療開始率（入院後治療開始/未治療）

2022年



- ・ 医師事務の参入
- ・ クリニカルパスの導入
- ・ 保健点数の加算



検査率と治療開始率が大幅に改善した

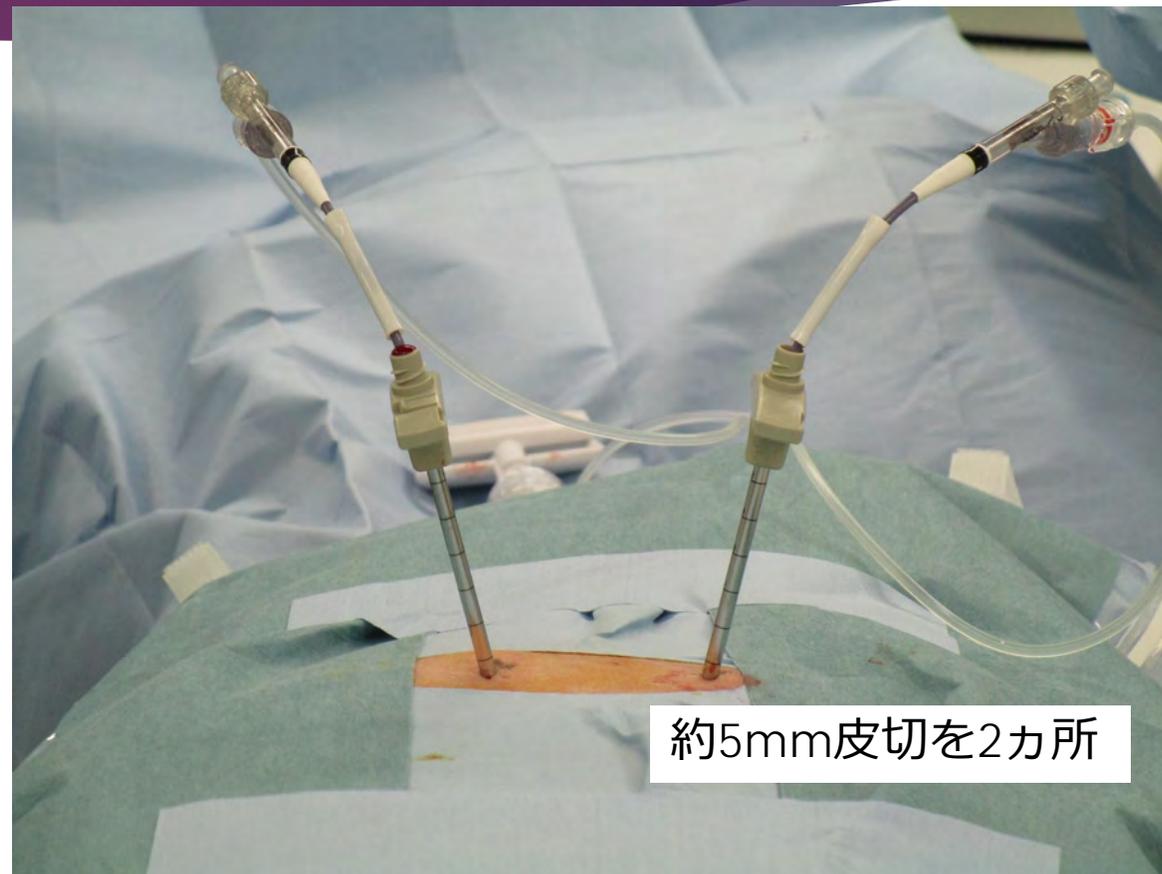
当院との連携についてのお願い

- ▶ 当院のOLS対象患者に対する投薬加療をお願いします。
- ▶ 対象患者は当院地域連携より連絡致します。
- ▶ 6か月後、1年後の諸検査は当院にて行わせてください。
(当院でも加算させていただきます)
- ▶ 「継続的な二次性骨折予防に係る評価」の算定につき**手続きをして下さい**。(厚生労働省ホームページあるいは担当MRへ)

経皮的後弯矯正術 (Ballon Kyphoplasty : BKP)

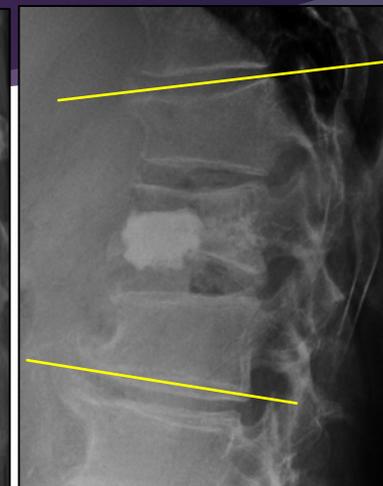


透視で2方向確認



約5mm皮切を2カ所

術後単純X線像

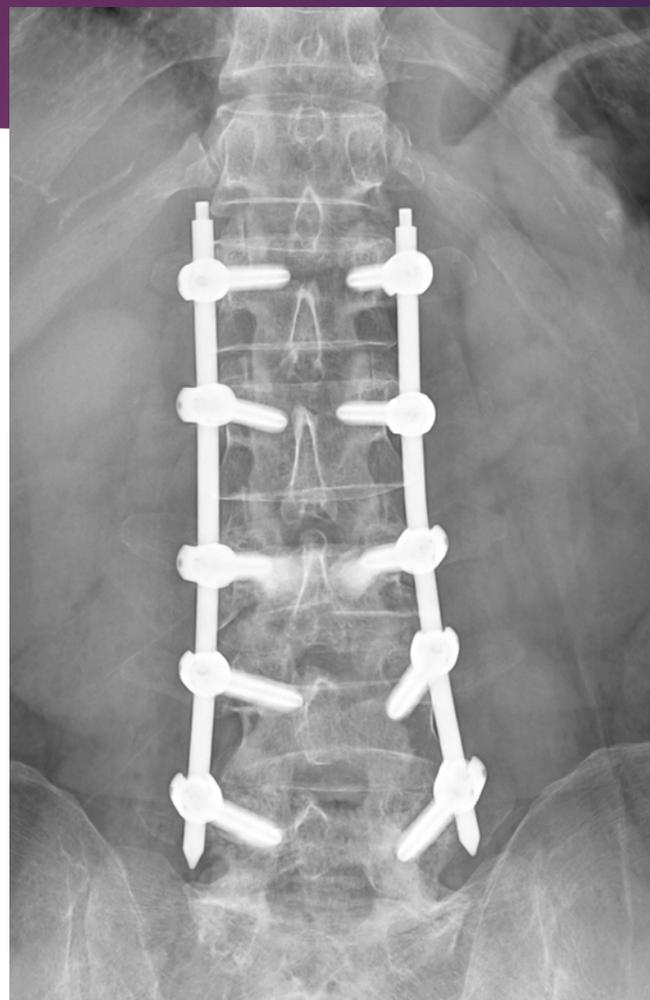
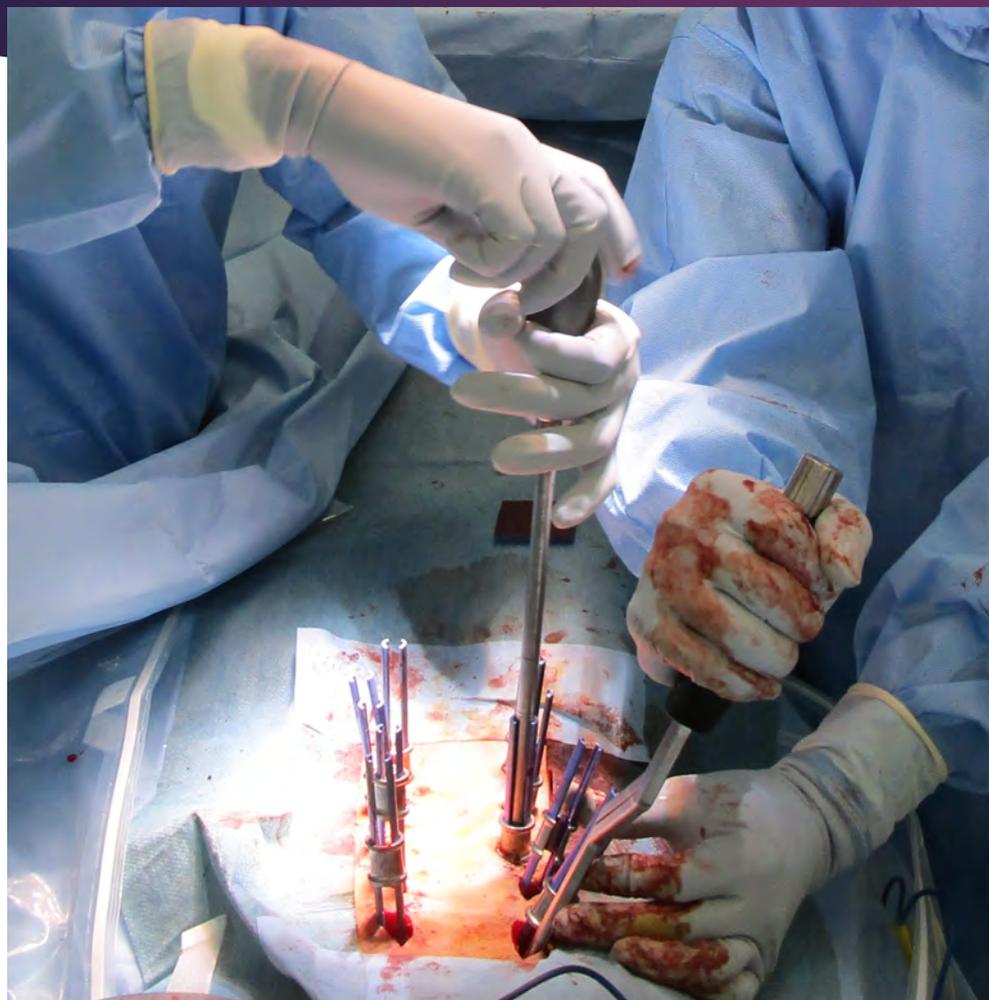


椎体内の不安定性消失
局所後弯変形の改善

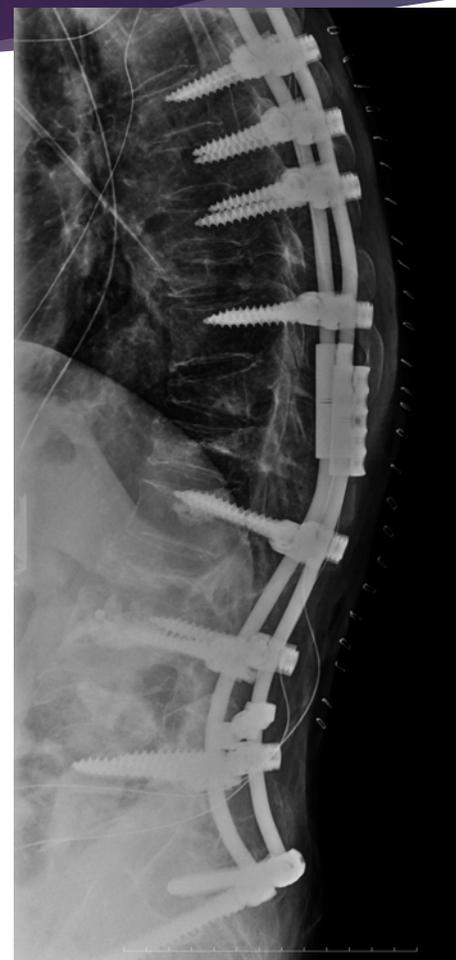
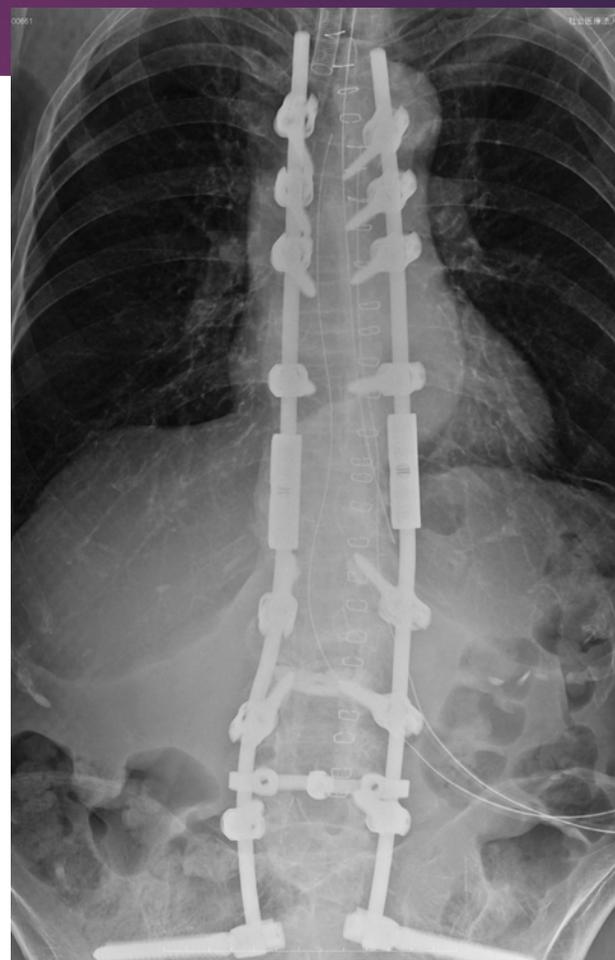


腰痛軽減
術翌日より独歩可

壮年期の脊椎破裂骨折→PPS(経皮的椎弓根screw)



脊椎変性疾患に対する脊椎固定術



上腕骨通顆骨折、および肘関節脱臼骨折



(自施設データ)

大腿骨近位部骨折術後ステム周囲骨折



人工膝関節置換術および人工股関節置換術



外反母趾手術



まとめ

1. 大腿骨近位部骨折は生命予後に影響する骨折で二次骨折を予防するためにFLSを導入し、検査率（100%）や治療開始率（69.7%）が向上した.
2. 大腿骨近位部骨折は48時間以内に手術を目指します。退院後の薬物治療をお願いします。
3. 外傷は勿論、脊椎および関節変性疾患や足の外科手術も対応可能ですのでご紹介宜しくお願い致します。